

教科名	理科
科目名	科学と人間生活（物理分野）
グレード	
単位数	2単位
対象学年	高校1年

科目の概要	教科書とテキストを中心に基礎知識の整理と理解を行う。問題練習を適時行いながら考え方を定着させるとともに応用力を養う。
科目の目標	科学的なものの見方を習得する。自然科学の基礎科目としての物理の基本的な内容を理解する。高校2年時以降学習する物理・物理基礎の力を身につけて、大学入試に対応できる能力を養う。
使用教科書	科学と人間生活 数研出版 物理基礎 数研出版
使用副教材	リードα物理基礎・物理 数研出版 フォローアップドリル物理基礎 数研出版 清真学園物理分野テキスト
評価の方法	定期試験の素点を主にし、総合的に評価する。
学習の方法	授業の復習を重点的に行う。授業中に取り上げた内容を、その日のうちに教科書等を用いて整理する。問題演習は定期考査前だけでなく、日頃からを行うこと。定期考査前は理解が浅い問題の復習に用いること。
生徒への一言	現象をイメージできるようになることが重要。そのためには、疑問点を解決し、放置しない姿勢を身につけること。授業を大切に。教員への質問も、積極的に行うこと。

月	授 業 予 定
4月	科学と人間生活 第3編第1章 光の性質とその利用 第1章 運動の表し方 1 速度 A 速さ
5月	B 等速直線運動 C 速度 D変位 E 平均の速度 F 瞬間の速度 G 速度の合成 H 相対速度 2 加速度 A 加速度 B等加速度運動
	5月下旬 前期中間考査
6月	3 落体の運動 A 自由落下 B 鉛直投射 C 水平投射 D 斜方投射 第2章 運動の法則 1 力とのはたらき A 力 B いろいろな力
7月	2 力のつりあい A 力の合成・分解 B 力のつりあい
8・9月	C 作用反作用 3 運動の法則 A 慣性の法則 B 運動の法則
	9月下旬 前期期末考査
10月	C 運動方程式 D 重さと質量 4 摩擦を受ける運動 A 静止摩擦力 B 動摩擦 力
11月	5 液体や気体から受ける力 A 圧力 B 浮力 C 空気の抵抗 第3章 仕事と力 学的エネルギー 1 仕事 A 仕事 B 仕事の原理
	11月下旬 後期中間考査
12月	C 仕事率 2 運動とエネルギー A エネルギー B 運動エネルギー C 運動 エネルギーと仕事の関係 3 位置エネルギー A 重力による位置エネルギー B
1月	C 保存力と位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存 A 力学的エネルギー保 存則
2月	B 保存力以外の力が仕事をする場合 発展的学習 1 剛体にはたらく力のつりあい A 剛体にはたらく力 B 力のモーメント C 剛体のつりあい
	2月下旬 後期期末考査
3月	D 剛体にはたらく力の合力 E 偶力 F 重心 G 剛体の傾きと転倒